令和３年度第１回アスリート委員会議事録

議事録作成者：事務局　松谷昌典

１　日　時：令和３年６月２８日（土）１９時～１９時半

２　場　所：公益社団法人日本パワーリフティング協会　本部事務局
〒６７８－０２３９　兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３　出席者：【理事】太田勇吉
（敬称略、以下同様）
【委員】秋山 継徳、阿久津 貴史、鈴木 佑輔、久保 匡平、後藤 衆治、
丹羽 弘典、池田 翔一
※委員総数：８名、本日の出席委員７名
※九野 毅 委員は仕事のため欠席
【陪席】松谷 昌典（事務局長）
担当理事の太田勇吉、委員の秋山継徳、阿久津貴史、鈴木佑輔、久保匡平、後藤 衆治、丹羽弘典、池田翔一はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

４　開　会　定刻、太田勇吉担当理事が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５　議　長　アスリート委員会規程第８条により委員長が議長を務めるが、委員長決定前の委員会であることから、太田勇吉担当理事が議長を務めることが会場に諮られ、賛成多数で太田勇吉担当理事が議長に選任された。

６　議　事
第１号議案　アスリート委員会についての意思共有
初回委員会につき、アスリート委員の自己紹介が行われた。また、議長よりアスリート委員会の位置付について説明がなされた。
第２号議案　アスリート委員会委員長の選出について
議長より、委員長の自薦を会場に募ったが、立候補者はいなかった。議長より、競技実績や地域性から阿久津貴史氏を委員長に推薦する提案がなさ

れた。会場に諮ったところ、出席委員全員一致で阿久津氏を委員長とすること承認された。

第３号議案　その他

今後の委員会の進め方について、議長より以下の提案がなされた。

（１）アスリートの意見取りまとめ

メーリングリストを用いた意見、資料の事前共有を行い、委員会審議事項の要点を絞ったのち、ＷＥＢを用いた委員会を随時設定、理事会へ諮問する議案の整理を行うこととする。

（２）委員が提案する議案について

委員が提案する議案は、事前に所属する都道府県やブロックで審議されたものの他、ガバナンスコードにおいては選手の意見を組織運営に反映させるために本委員会が設置されたものであるから、全ての提案が所属先の了解を得たものでなくても可とする。

（１）及び（２）を議場に諮ったところ、出席委員全員一致で承認された。

また、アスリート委員会で早速審議すべき議案等があれば、６月末までにメーリングリストに資料等とともに送信することとなった。

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は１９時半に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、出席担当理事及び委員が次に記名押印する。

令和３年６月２８日　公益社団法人日本パワーリフティング協会アスリート委員会

太田勇吉

議　　長　　太田　勇吉

(担当理事)

阿久津　貴史

委　員　長　　阿久津貴史

秋山　継徳

委　　員　　秋山　継徳

委　　員　　鈴木　佑輔

委　　員　　久保　匡平

委　　員　　後藤　衆治

委　　員　　丹羽　弘典

委　　員　　池田　翔一

令和３年度第２回アスリート委員会議事録

議事録作成者：事務局　松谷昌典

１　日　時：令和３年７月１９日（月）１８時～１９時

２　場　所：公益社団法人日本パワーリフティング協会　本部事務局
〒６７８－０２３９　兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３　出席者：【理事】太田勇吉
（敬称略、以下同様）
【委員】秋山 継徳、阿久津 貴史、鈴木 佑輔、久保 匡平、後藤 衆治、
丹羽 弘典、池田 翔一
※委員総数：８名、本日の出席委員７名
※九野 毅 委員は欠席
【陪席】松谷 昌典（事務局長）
担当理事の太田勇吉、委員の秋山継徳、阿久津貴史、鈴木佑輔、久保匡平、後藤 衆治、丹羽弘典、池田翔一はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

４　開　会　定刻、阿久津貴史委員長が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５　議　長　アスリート委員会規程第８条により阿久津貴史委員長が議長に選出された。
議事録署名人に久保匡平委員が選出された。

６　議　事
第１号議案　理事会提案事項について
阿久津貴史委員長より、理事会へ具体的提案事項があるかどうか議場に諮られた。意見交換の後、デッドリフトルールの「コントロール」解釈について、曖昧な基準であり試技失敗の扱いとする国内ルールは不適切であるとして理事会に問題提起をすることが提案された。ＩＰＦルールに準じ、失敗扱いとしないよう国内ルールの改定を求めるものとする。審議の結果、出席委員全員一致で理事会提案することとなった。

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は１９時に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人が次に署名または記名押印する。

令和３年７月１９日　公益社団法人日本パワーリフティング協会アスリート委員会

阿久津　貴史

委　員　長　　阿久津貴史
（議　長）

久保　匡平

議事録署名人
（委　員）　　久保　匡平

令和３年度第３回アスリート委員会議事録

議事録作成者：事務局　松谷昌典

１　日　時：令和３年８月１４日（月）１８時～１９時

２　場　所：公益社団法人日本パワーリフティング協会　本部事務局
〒６７８－０２３９　兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３　出席者：【委員】秋山 継徳、阿久津 貴史、鈴木 佑輔、九野 毅、久保 匡平、
後藤 衆治、丹羽 弘典、池田 翔一（敬称略、以下同様）
※委員総数：８名、本日の出席委員８名
【陪席】松谷 昌典（事務局長）
委員の秋山継徳、阿久津貴史、鈴木佑輔、九野毅、久保匡平、後藤 衆治、丹羽弘典、池田翔一はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

４　開　会　定刻、阿久津貴史委員長が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５　議　長　アスリート委員会規程第８条により阿久津貴史委員長が議長に選出された。
議事録署名人に久保匡平委員が選出された。

６　議　事
第１号議案　理事会提案事項の整理について
阿久津貴史委員長より、理事会具体的提案事項をまとめることが議場に諮られた。意見交換の後、以下の３点を理事会へ提案することとなった。
（１）デッドリフトのコントロール
国内ルールについてもＩＰＦルールに準じ元通りに戻すこと。
（２）国際大会等重要事項の通知について
国際大会エントリーやルール変更など、重要事項周知については何らかの方法で選手らに通知がされることを希望するもの。
（３）日本記録表の更新について
日本記録表の更新は速やかに行い、ホームページ等で周知されるこ

とを希望するもの。ブロック大会が同日開催されることがあるため、
クラウド等でリアルタイムに共有できることが望ましい。

審議の結果、出席委員全員一致で理事会提案することとなった。

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は１９時に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人が次に署名または記名押印する。

令和３年８月１４日　公益社団法人日本パワーリフティング協会アスリート委員会

阿久津　貴史

委　員　長　　阿久津貴史
（議　長）

久保　匡平

議事録署名人
（委　員）　　久保　匡平

令和３年度第４回アスリート委員会議事録

議事録作成者：事務局　松谷昌典

１　日　時：令和３年１０月１７日（日）２２時～２３時

２　場　所：公益社団法人日本パワーリフティング協会　本部事務局
〒６７８－０２３９　兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３　出席者：【委員】秋山 継徳、阿久津 貴史、鈴木 佑輔、後藤 衆治、丹羽 弘典（敬称略、以下同様）
※委員総数：８名、本日の出席委員５名
※九野毅、久保匡平、池田翔一は都合により欠席
【陪席】松谷 昌典（事務局長）
委員の秋山継徳、阿久津貴史、鈴木佑輔、後藤 衆治、丹羽弘典はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

４　開　会　定刻、阿久津貴史委員長が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５　議　長　アスリート委員会規程第８条により阿久津貴史委員長が議長に選出された。
議事録署名人に鈴木佑輔委員が選出された。

６　議　事
（１）理事会審議の報告
阿久津貴史委員長より、９月２５日ＪＰＡ理事会審議事項の報告がなされた。
（ア）デッドリフトのコントロール
理事会においてルールの見直しは行わないことが決議されたが、大会を永続的に開くためという観点で理事らの話し合いが行われていたこと報告がなされた。しかし、本件は選手としては納得性に乏しく、繰り返しルール改訂について訴えていくことで一致した。話し合いの過程で、以下の内容の意見がなされた。

・どのくらい衝撃があるのか明らかにしてほしい。
・客観的に評価することが難しいルールである。説明のつかない内容は反対する。
・某県ではデッドリフトで体育館が壊れて修理費を請求された。コントロールして下すことは必要だが、トイレをきれいに使う、ゴミを持ち帰る、デッドは静かに下すなど努力義務としてほしい。
・ＷＥＢ審判講習会は対面講習会と比べ簡素化されており、３級審判員では不明瞭なルールで審判に当たることは難しいのではないか。
・審判免許も保有しているが、このルールはジャッジしづらい。審判をやりたくない人が増えるのでは。

（イ）国際大会等重要事項の通知について
・シクミネット改良の提案が理事会でなされ、次年度分からはメール通知を行うこと報告された。メールが到着したかどうか、また開示したかどうかチェックできる機能がついているため改善すると思われる。
・大会要項に国際大会のエントリーはインターネットから申し込むことが明記されることになった。

（ウ）日本記録表の更新について
理事会では、技術委員長より複数名でチェックしておりリードタイムが必要であることの説明がなされたこと、リードタイムは１２日以内としてホームページを更新することが決定したこと報告された。

（２）アスリート委員会審議事項の情報発信について
アスリート委員会で審議していることをどのように発信していくか意見交換がなされた。話し合われた内容は以下の通り。
・ホームページ、ＳＮＳ、その他媒体で発信したいが、個人のものではなくＪＰＡオフィシャルで発信したい。
・松谷事務局長より、ガバナンスコード対応で、アスリート委員会議事録はＪＰＡホームページに掲載されることになっていること、アスリート委員会は各ブロックから選出されているため、ブロックごとのアスリートに伝達もしくは意見集約する仕組みを構築することはどうかなどのコメントがなされた。

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は２３時に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人が次に署名または記名押印する。

令和３年１０月１７日　公益社団法人日本パワーリフティング協会アスリート委員会

阿久津　貴史

委　員　長　　阿久津貴史
（議　長）

鈴木　佑輔

議事録署名人
（委　員）　　鈴木　佑輔

令和４年度　第１回アスリート委員会議事録

議事録作成者：委員長　阿久津貴史

１ 日 時：令和４年６月２２日（水）２２時～２３時

２ 場 所：公益社団法人日本パワーリフティング協会 本部事務局
〒６７８－０２３９ 兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３ 出席者：
【委員】秋山継徳、阿久津貴史、池田翔一、九野毅、久保匡平、後藤衆治、
鈴木佑輔、丹羽弘典（敬称略、以下同様）
※委員総数：８名、本日の出席委員８名
【陪席】松谷昌典（事務局長）
委員の秋山継徳、阿久津貴史、池田翔一、九野毅、久保匡平、後藤 衆治、鈴木佑輔、丹羽弘典はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

４ 開 会
定刻、阿久津貴史委員長が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５ 議 長
アスリート委員会規程第８条により阿久津貴史委員長が議長に選出された。

６ 議 事
第１号議案　理事会提案事項について
以下の内容について、理事会提案事項とすることが議場に諮られた。
（１）大会名称の変更について
ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会、ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会の名称を全日本クラシックパワーリフティング選手権大会、全日本クラシックベンチプレス選手権大会に変更することが議場に諮られた。審議の結

果、大会名称の変更を次回理事会へ提案することとなった。

（２）国際大会における航空会社の採用に関して

航空会社採用の基準の公開、採用の際に選手団長の参加をルール化する、個人手配の再開に関しての主に３点が議場に諮られた。意見交換の後、まずアスリート委員と国際委員が連携をし、航空会社の選考の際に選手団長が参加することができないか調整をしていくこととなった。

（３）日本代表ユニフォームの購入に関して

過去のモデルが使えなくなる場合、選手の負担が増大することから過去モデルは全て使えるようにルールを変更することが議場に諮られた。審議の結果、過去に購入したモデルは全て使用可能というルール変更を次回理事会に提案することとなった。

（４）ブロック大会での日本記録認定の廃止に関して

ブロック大会ではドーピング検査が常時実施されないため、日本記録の認定は全国大会のみに限定するルール変更が議場に諮られた。本件は継続審議となった。

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は２３時に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、出席委員全員が署名または記名押印する。

令和４年６月２２日
公益社団法人日本パワーリフティング協会
アスリート委員会

（議長）阿久津　貴史
（委員）秋山　継徳
（委員）池田　桐一
（委員）九野　毅

（委員）久保　匡平

（委員）後藤　眾治

（委員）丹羽　弘典

（委員）鈴木　佑輔

令和４年度　第２回アスリート委員会議事録

議事録作成者：委員長　阿久津貴史

１ 日 時：令和５年１月５日（木）２１時～２２時１５分

２ 場 所：公益社団法人日本パワーリフティング協会 本部事務局
〒６７８－０２３９ 兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３ 出席者：【委員】秋山 継徳、阿久津 貴史、池田翔一、久保匡平、後藤 衆治、
丹羽 弘典（敬称略、以下同様）
※委員総数：８名、本日の出席委員６名
【陪席】松谷 昌典（事務局長）

委員の秋山 継徳、阿久津 貴史、池田翔一、久保匡平、後藤 衆治、丹羽 弘典はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

４ 開 会 定刻、阿久津貴史委員長が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５ 議 長 アスリート委員会規程第８条により阿久津貴史委員長が議長に選出された。

６ 議 事

第１号議案　技術委員会との会合に関する報告

阿久津貴史委員長より、令和４年１２月２２日に開催された技術委員会との会合に関する報告がされた。

１　国体の選考に関する女性選手枠の増加案に関して

現在の JPA 登録選手数の内、女子選手の登録数は全体の約 14%ということを踏まえて、まず約２倍の出場枠まで女子選手の出場枠を増やしていき、中期的には男女比率を等しくしていく。また現時点では女子選手の参加人数が少ないことからブロック大会だけでの選考という可能性も検討したい。上記、技術委員会との意見交換の報告がされた。アスリート委員内での意見交換の後、男女参加枠の変更に関する公開は常に実施して欲しいという要望がでた。

２　標準記録改訂の経緯に関して

マスターズの出場選手数の増加に伴い、令和４年に開催された岩手県では３日開催となるなど、主催者への負担が大きくなっている事を鑑み標準記録の改訂となった。開催県の場所によっては審判が集まらない、体育館の閉館が１７時などの制約もあり大規模的に開催することが難しい現状が報告された。アスリート委員会内での意見交換の後、マスターズ１だけの改訂ならよかったが、マスターズ２以降の改訂に関してはマスターズの年齢からパワーリフティングを始めた選手には厳しいといった意見が出された。この件に関してＪＰＡ事務局長の松谷昌典氏よりスポーツ庁が掲げるジャパンゲームズ構想の説明がなされた。

３　ジャパンゲームズ構想に関して

スポーツ協会では、性別、年齢、障がいの有無、経済的事情、地域を問わず、誰もが楽しめるようにスポーツの魅力を拡大していくという方針の元、ジャパンゲームズという在り方を進めていく。国民体育大会は令和６年度からジャパンゲームズの扱いになる。このような大きな流れを踏まえてＪＰＡにおいても、

①世界選手権の選考を目的とした全国大会

②ジャパンゲームズの理念に沿った全国大会

という２タイプの大会を用意していく必要性の報告がされた。アスリート委員会内での意見交換の後、現時点で主催されている全国規模の大会の内、国民体育大会、日本グランプリがジャパンゲームズ的位置付けの大会として考えられるとはいえ、国民体育大会は男女の参加枠が決められている関係上、日本グランプリへの参加数が大きく増大する可能性が予想されるため、新たな全国大会を検討する等のＪＰＡ事業の抜本的な改革の必要性に関して意見が出された。

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は２２時１５分に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、議長及び出席委員が次に署名または記名押印する。

令和５年１月５日

公益社団法人日本パワーリフティング協会　アスリート委員会

委員長（議長）　阿久津　貴史

委　員　秋山　継徳

委　員　池田　翔一

委　員　久保　匡平

委　員　後藤　眾治

委　員　丹羽　弘典

令和４年度第３回アスリート委員会議事録

議事録作成者：委員長　阿久津貴史

１ 日 時：令和５年２月２日（木）２１時～２２時

２ 場 所：公益社団法人日本パワーリフティング協会 本部事務局
〒６７８－０２３９ 兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３ 出席者：【委員】阿久津貴史、池田翔一、九野毅、後藤衆治、丹羽弘典
（敬称略、以下同様）
※委員総数：８名、本日の出席委員５名
【陪席】松谷 昌典（事務局長）

委員の阿久津貴史、池田翔一、九野毅、後藤衆治、丹羽弘典はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

４ 開 会 定刻、阿久津貴史委員長が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５ 議 長 アスリート委員会規程第８条により阿久津貴史委員長が議長に選出された。

６ 議 事

第１号議案 理事会提案議案に関して

（１）大会名称の変更（統一）について
ノーギアの大会名称について、「ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会」及び、「ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会」を改め「全日本クラシックパワーリフティング選手権大会」、「全日本クラシックベンチプレス選手権大会」等に変更することが議場に諮られた。意見交換の後、大会名称の変更を次回理事会へ提案することとなった。

（２）日本代表ユニフォームの購入に関して
日本代表ユニフォームについて、過去のモデルが使えなくなる場合、選手の負担が増大することから、過去モデルについても全て使えるようにルール変更を要望することが議場に諮られた。意見交換の後、過去に購入したモデルは全て使用可能へというルール変更を次回理事会に提案することとなった。中長期的にメディアへの印象等を考えると統一感があることは望ましいので、今後メーカーが製造しているジャージのモデルチャンジがある際には色の統一をしていく形が望ましいという意見で一致した。

（３）デッドリフト競技におけるＩＰＦルールへの統一化とその対応策に関して
デッドリフト競技における騒音と振動の問題から、体育館を借用困難なケースが出ていることから追加されたデッドリフトにおける日本独自ルール「バーはプラットフォームに静かにコントロールして降ろす事、コントロールして降ろ

す意思が無い選手は日本国内独自のルールとして“失敗試技”とする。」　に関してＩＰＦルールへ戻すことに関して理事会へ提案することが議場に諮られた。問題の本質となる体育館の床を守り騒音を抑えるという点を解決するには何よりプラットフォームの工夫が必要であるという意見が多くでた。

アスリート委員会の各ブロック担当委員は担当ブロック内における大会運営にも携わっている委員が多く、体育館利用に関する申し込み状況のヒアリングを実施した。各ブロックにおいてはデッドリフト競技における騒音と振動に関して許容される体育館とされない体育館を把握していることが多いことからデッドリフトの騒音と振動問題が運営において大きな問題になっていない現状も多いことが把握できた。しかし日本協会主管となる大会においては新規で施設を借りる交渉をすることも多いと考えられるため、プラットフォームの工夫で騒音・振動問題の解決を目指しＩＰＦルール下で大会運営ができるよう施設側と交渉していく方向に舵取りをして欲しいという意見にまとまった。デッドリフト競技におけるＩＰＦルールへの統一化とその対応策に関して次回理事会に提案することとなった。

第２号議案　理事会報告議案

・ブロック大会での日本記録認定の廃止に関して

ブロック大会ではドーピング検査が常時実施されないため、日本記録の認定は全国大会のみに限定するルール変更を理事会提案することが議場に諮られた。選手のためには日本記録挑戦の機会が多いことが望ましいが、現状ドーピング検査がほとんどされていないことを考えると、日本記録認定大会としない方がいいと言った意見が出された。審議の結果、本件は継続審議議案となったが、理事会へはこのような意見が出ていること報告することとなった。

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は２２時に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、議長及び出席委員が次に署名または記名押印する。

令和５年２月２日 公益社団法人日本パワーリフティング協会アスリート委員会

委員長（議長）　阿久津　貴史

（委員）　池田　翔一

（委員）　九野　毅

（委員）　後藤　無治

（委員）　丹羽　弘典

令和５年度　第１回アスリート委員会議事録

議事録作成者：委員長　阿久津貴史

１ 日 時：令和５年６月３０日（金）２２時～２３時

２ 場 所：公益社団法人日本パワーリフティング協会 本部事務局
〒６７８－０２３９ 兵庫県赤穂市加里屋９８－１６

３　出席者：【委員】阿久津貴史、九野毅、丹羽弘典、下屋敷亘、長江由美子、
山川太希、壺内怜帆
（敬称略、以下同様）
※委員総数：９名、本日の出席委員７名
【陪席】福島政幸（担当理事）、松谷 昌典（事務局長）

委員の阿久津貴史、九野毅、丹羽弘典、下屋敷亘、長江由美子、山川太希、壺内怜帆はテレビ会議システム等を利用する事によりこの会議に出席し、決議・質疑を行った。

４　開　会　定刻、委員の阿久津貴史が、テレビ会議システム等により出席者の音声・映像の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本委員会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

５　議 長　委員の阿久津貴史が議長に立候補し、満場一致で承認された。議長より、議事録署名人として丹羽弘典が推薦され、満場一致で承認された。

６　議 事

第１号議案　委員長の選任
アスリート委員会規程第５条に基づき、委員長の選任が行われた。前任委員長の阿久津貴史を委員長とする提案がなされ、出席委員満場一致で委員長に選出すること承認された。阿久津氏は席上その就任を承諾した。

第２号議案　副委員長の選出
アスリート委員会規程第５条第２項に基づき、阿久津貴史委員長が委員の久保匡平を指名し、副委員長の選任がなされた。久保氏から就任承諾書が提出された。

第３号議案　理事会提出議案について
阿久津委員長から理事会提出する議案について、委員全員へ意見を募ったところ、以下の提案がなされた。
（１）フルギア競技に関しての参加者が少ない。その原因として一般の公共の施設でギアをするのが難しい、初心者が独学で技術を習得するのが難しい、遠方にセコンドを連れて行くのが難しい点があるのではないか。フルギア競技人口を増やすためにはJPA がギアに関する技術講習会や動画教材の作成をして普及活動を試みる、セコンドの課題に関してはセコンドを紹介するシ

ステムを検討してはどうか。

（２）ベンチプレスの肘判定の程度が新しいルールブックでも良く分からない。

（３）ベンチプレスの判定に抗議するために動画を撮影して陪審員席や審判に動画を持ってきてしまう選手やセコンドが増えてきたことを含めて選手教育をして欲しい。

（４）ブロック大会に試合慣れしてない選手が大量に出て進行面で混乱が起きた。ＪＰＡのホームページに、試合に出る選手向けに手順を紹介する情報があってもいいのではないか。

（５）学生にとっては試合出場参加費や審判資格と更新費用が高いので学割制度を設けて欲しい。学割があれば審判が増えるのでは。

（６）ベンチプレスの肘の判定ポイントに関して動画による紹介をして欲しい。

（７）補助員のレベルアップを図る目的の動画や講習が欲しい。

（８）世界ベンチプレス選手権では審判の判定を陪審員が覆すケースが多かったことと審判資格取得後にルールブックの贈呈があってもいいのではないか。

提案事項のうち、理事会提案する議案に関して、議場に諮ったところ、下記２点とすることが満場一致で決定した。

・ベンチプレスの判定の理解を深めるための動画紹介をＪＰＡのホームページに掲載

・学生に対する審判資格取得費用、更新費用、大会出場費用の学割制度の制定

以上をもって、電話会議システム等を用いた本委員会は、終始異状なく全議案の審議及び報告を終了したので、議長は２３時に閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、議長及び出席委員が次に署名または記名押印する。

令和５年６月３０日 公益社団法人日本パワーリフティング協会アスリート委員会

（議　　長）委 員 長　阿久津　貴史

（議事録署名人）委員　丹羽　弘典